

聖中だより

<http://schit.net/tama/jbhijirigaoka/>
ユネスコスクール・コミュニティスクール
オリンピック・パラリンピックアワード校



学校教育目標

- ・心身ともに健康で実践力のある生徒
- ・深く考え進んで学ぶ生徒
- ・人や物・自然を大切にする生徒

この夏、何とどう向き合うか ～かけがえのない命を守り、充実した夏休みにするために～

校長 麻生 隆久

本校は、いよいよ明日から大規模改修工事の後半作業が始まります。それに伴って、基本的に校舎の使用がほとんどできなくなるため、今年は、明日から8月31日(火)まで、46日間にわたる長い夏休みにはなります。そこで、この長い休みを充実したものにするために、どのような心構えをもって過ごしたら良いのか、一人一人が、何とどう向き合ったら良いのか、そのポイントを整理しておきたいと思います。

(1) 新型コロナウイルス感染症とどう向き合うか

残念ながら、まん延防止等重点措置も十分な成果が見られず、オリンピック開幕を目前に控えた4度目の緊急事態宣言が発出される事態となってしまいました。しかしながらその後も感染者数は、増え続けています。とくに「デルタ型」と言われる非常に感染力の強い新型が登場し、もはや、誰がかかってもおかしくない状況です。このような状況にもかかわらず、皆さんの中で、本当に身近に危険が迫っているという認識をどのくらいの人がもっているのでしょうか。中には、「今まで大丈夫だったし、ワクチンを打つ人も増え、オリンピックもやるくらいだから、自分も大丈夫だろう。」などと、根拠のない安心感をもってしまっている人も少なくないのではないのでしょうか。しかし頼みのワクチンも予定通りには接種が進まず、年内には概ね行き渡るという当初の予測も危うい状況です。児童や生徒に回ってくるのは秋以降と思われます。先日は、既往症のなかった30代の男性が亡くなったとの報道もありました。最近では、マスクはしているものの、手洗いや消毒を怠っている人も多く見かけるようになりました。とにかく、今は、可能な限りの予防を徹底することしかありません。今まで無事だったのは、単なる偶然かも知れません。特に、3年生は、休み明けには修学旅行も控えています。今年はなんとか実施しようと準備を進めていますが、もし、教員や生徒に感染者が出たら実施を断念せざるをえなくなる可能性もあります。ここで改めて自分の意識と行動を見直し、不要不急の外出を避け、一人一人が感染予防を徹底して欲しいと思います。



ただし、予防してもかかってしまった場合は、直ちに学校に連絡してください。ちなみに、学校閉庁期間(8月10日～8月16日)以外の平日は、日直で誰か先生が学校にきています。また、夜間や閉庁期間中であっても、急を要する場合は、市役所の庁舎管理室(042-338-6855)に電話をすれば、管理職に連絡が入ることになっています。

(2) 自分とどう向き合うか

☆ 1学期を振り返り、それを生かして、自分に合った具体的な学習目標を立てよう

夏休みは、自分と向き合う時間がたっぷりあります。もちろん、自分と向き合うこと自体は一年中いつでも可能ですが、夏休みは特に自分の自由になる時間が増えます。それだけに、その使い方によって、その先の自分に大きな影響があります。既に、学活の時間等で、1日の過ごし方や学習の計画の立て方などの指導もあったことと思います。また、先日の三者面談でも、夏休みの過ごし方が話題に上がった人も多いと思います。

そこで、大切なことは、「話題だけで終わっている」か、「実行に移している」と言う点です。計画を「絵に描いた餅」に終わらせないために、今日から実行することが大切です。その際のポイントは、①できるだけ具体的な内容にすること。教科や時間だけでなく、問題集のページなど、具体的に決め、時間が過ぎても終わるまで続ける。②目標のハードルを上げすぎないこと。ちょっと頑張れば届く程度の具体的な目標にすること。③形に残すこと。やったことがあとでわかるようにしておく。④わからないところを見つける。しかし、簡単に投げ出さず、教科書や解説を読んだりして、できる範囲で解こうとしてみる。⑤わからないところをそのままにしない。自分で頑張ってみて、それでもわからなければ、印をつけて、あとで先生に聞こう。それもなるべく早く。

☆ 夏休み中もなにかあれば先生を頼ろう

とは言うものの、今年は工事で校舎が使えないため、例年のような質問教室や学習会はできません。そこで、初の試みとして、ロイロノートを使って質問を受けられるようにしている教科もあります。家にwi-fi環境がある人は、これを活用してみてもはどうでしょうか。先生たちも、出勤した日にそれを見て、できるだけ早く質問に答えるようにします。(実施教科等、詳しくは学年だよりなどを参照してください。)

また、家にwi-fi環境がない人は、聞きたい教科の先生が日直になっている日に直接学校に電話して聴くか、学校に来て、直接質問をすることもできます。

さらに、学習以外でも、何か困ったことが起きたり、家族や友達にも相談できないような悩みを抱えている人も、一人で悩んでいないで、遠慮なく、学校に相談してください。また、学校以外にも、相談できる窓口は沢山ありますので、活用してください。(別紙にて配布済み)

(3) 家族とどう向き合うか

家族の一員としての役割を果たし、家族と対話の時間を作ろう。

夏休みは、家族との対話がゆっくりできるチャンスです。とはいえ、保護者の人は、仕事や家事に追われ、なかなか皆さんとゆっくり会話する時間もないかもしれません。そこで、日頃の家族への感謝の意味も込めて、一つでもいいので、家族に代わって、何か家事の分担を引き受けてください。それがまた、家族との対話のきっかけにもなると思います。いざというとき、家族は、皆さんを支えてくれる大切な存在であることを忘れないでください。

(4) オリンピック・パラリンピックとどう向き合うか

自分にとってのオリ・パラレガシー（引き継がれるもの・遺産）とは？

いよいよ、オリンピック開幕まで1週間となりました。特に本校は、「オリンピック・パラリンピック教育アワード校」の指定を受け、これまでも「障害者理解」を中心に、様々な活動に取り組んできました。その一環として、パラリンピック陸上競技を観戦する予定でした。しかしながら、先日お伝えしたように、今回のオリンピックは無観客に決まり、多摩市教育委員会の方針としても、残念ながら学校連携観戦は見送ることになりました。それでも、1年生は、先日、10秒間ですが、応援メッセージを学年全員で作りと、都の企画する応援動画のプロジェクトに応募しました。

オリンピックやパラリンピックは4年ごとに開催されますが、自国開催は極めて貴重な機会です。せっかくですから、直接見ることはできなくても、一人一人がいろいろな方法で、楽しんだり、応援して欲しいと思います。市報にも紹介された水泳の砂間敬太選手を始め、陸上競技や新体操など、多摩市にゆかりのある選手が何人も出場するようですので、それを調べてみると、一段と興味がわくと思います。そうした、身近な選手の活躍や頑張る姿は、きっと皆さんの心にも良い影響をもたらすことになるでしょう。それ自体が、一つのレガシー（引き継がれるもの）と言えるのではないのでしょうか。

